

リンパ浮腫予防にDVTM

手術後やリンパ郭清術後のリンパ浮腫予防に、早い時期からの DLM 施術が有効であることは、よく知られています。しかし、DLM であればなんでも良いわけではなく、また、「早い時期」の施術開始タイミングも非常に大事である認識がまだまだ充分ではないように感じています。

術後直後に使用する DLM は、“DVTM：皮下組織と脈管を活性化する DLM”と言われる手技です。医師の許可を得て、1日でも早く傷口の周辺から DVTM を行います(退院直後から可)。

皮下組織の血管と組織の代謝・物質交換を促すと、術後の痺れや違和感を早めに解消でき、傷口の回復も早まります。良い感触が重なると体を自然に動かせるようになります。DVTM は引き攣れや繊維化の予防、血腫を解消し、傷近くの関節の可動域が狭くならないように行います。

DVTM で皮下組織の回復を高めた後に、放射線治療を受けると組織へのダメージも軽く、リンパ浮腫の予防効果が非常に高くなります。

「早い時期」とは入院中でも、医師の許可範囲で、出来れば、術後翌日から可能な範囲起き上がり、ゆっくり、いつものように、しかし、疲れすぎないように体を使って過ごします。安静に努め、動かさない時間が長いほど、また長いほど、リンパ液の流れも滞りがちになり、術後の浮腫みが長引き、筋肉や関節の可動域が狭くなりがちです。

日本では術後直後のケア(DLM)がポコッと抜け、数週間後、数ヶ月後からの DLM やバンテージが一般的ですが、リンパ浮腫予防に最も大事なことは、術後直後からの過ごし方と、手術や放射線による皮下組織の回復：DVTM の施術です。DVTM は術後直後から、発症後も行う DLM です。

この DVTM の研修を6月25日から10日間パリで行います。

講師はフランス DLM 技術者会理事長のジャックドミカ氏。DLM 技術者育成登録者です。参加資格は、既に DLM を習得している方、医療従事有資格者です。

申込期限は5月25日、年に1回の機会を見逃さず、次のステップへ挑戦しませんか？

2007年5月吉日
日本 DLM 技術者会
代表 木部 真知子

(株)キベプランニング
日本 DLM 技術者会